

卒業するわたしたち
《小学館》加藤 千恵／著



【F913.6／カト】あふれてきたのを鮮明に覚えています。

（思い出してまた涙がでそう←え）そして、咲花はこの本を読んで、“卒業”といっても学校の卒業だけじゃなく、いろいろな“卒業”があって、人間って日々成長しているんだなと感じるきっかけになりました。（壮大）

ちょっと紹介すると、高校の“卒業”式、応援しているアイドルの“卒業”公演、大好きだった彼からの“卒業”など、色々なテーマの“卒業”を感じられる短編集です。ちょっと寂しい気持ちになっちゃうかもしれないけど、心温まるストーリーばかりだよ！

「怖い」が、好き！
《理論社》（今は絶版）加門七海／著



咲花2号は怖いのが苦手です。無理！なのにホラー映画を観て「うわー」って叫んで消す、っていうことを月イチでしています。好きか嫌いかで聞かれたら嫌いなのに、なぜホラー映画をみちゃうんだろう？理由が分からない方が怖いと思わない？それを解明するために読んでみたのがこの本。“怖いと感じている状況”が表紙になっていて、怖い話も載っています。「怖いのは本当に苦手！嫌い！」な子は読まない方がいいかも…（汗）。でも「ちょっと気になるかも…？」って思ったらぜひ読んでみて！なんで怖いと感じるのか、怖いものとの付き合い方など、著者の実体験（！）と一緒に紹介されているので、今後の生活にきっと役に立つはず。千キン（怖がり）な2号もこれで『怖い』を克服！いざ、ホラー映画！…うん、やっぱり怖いものは苦手！冷蔵庫の中から出てくるのは原則だと思うんだよね!!!!!!



【147／コ】

小写真真館《講談社》宮部みゆき／著

【2Fポピ F913.6／ミヤ】

『心霊写真』。幽霊がうつっていたり、本来あるべきものがなかったり（上半身はあるのに下半身がなく奥の景色が透けている）する写真のことで、90年代後半のオカルトブームでは頻繁に目にしたのだけど、最近では滅多に見ることはない。誰でも写真を加工できる現在では、そりゃ流行らないよな。SNS上の自撮りほぼ全て加工されている説、最近のプリクラ目を大きくし過ぎて化け物になっている説等々も、昭和生まれのアニキにとってはある意味ホラーなのだけれども。



知識ゼロからのコーヒー入門《幻冬舎》河野 雅信／著 【2Fポピ H596.7／千】



僕は大学生になった頃からコーヒーを飲むようになりました。というのも、当時の僕のバイト先（某ドーナツ屋）には、「売れ残りのコーヒーはみんなで飲んでいいよ！」というルールがあり、節約のために飲み物をほとんど買わなかった僕はいつも売れ残りのコーヒーを飲んでいました。（まあ、コーヒー豆の種類とか、何にも知らずに飲んでいましたが…）缶コーヒーなどにも、使っている豆の種類が書かれていますので、どんな特徴があるコーヒー豆を使っているか、ちょっと知っているだけで楽しみ方が変わると思います。ぜひお試しください。

グスコードリの伝記

【自動書庫 91／ミ】 《くもん出版》宮沢賢治／著



これは宮沢賢治の生前に雑誌掲載された数少ない作品です。イーハトーブに生まれた主人公ブドリは幼い頃発生した冷害により、両親と死別、妹と生き別れ苦難を経験するが、のちに出会った百姓に学問に励むことを奨められ、学問で農民を困窮から救おうと志す。その中で出会ったクーパー博士とともに、火山を利用した人口降雨で農民を救ったが、その5年後、寒波が再びイーハトーブに襲いかかる…。一見カタカナの地名や人物名が多く海外の話かなと思えますが、このイーハトーブのモデルは賢治のふるさと岩手県で、賢治の作品にたびたび登場します。

この作品の面白いところは、①冷害からの農民の救済②妹との再会③ブドリの結末と「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」の精神などから、賢治がブドリに自分を投影させながら、自分の理想の世界を描こうとした、とも読めるところです。どれも賢治本人とかかわりあるテーマなので、著者の思いをくみ取りながら読むと、深みが増します。

この本はまさに賢治が想い描く「宮沢賢治の伝記」です！

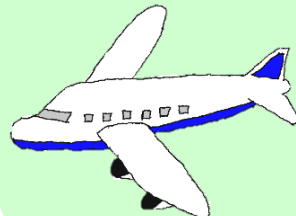
ちょっと自慢できるヒコーキの雑学100
《インプレス》チャーリー古庄／著

【1Fレファ 687.0／千】

問題です。飛行機を操縦するための免許は何歳から取得できるでしょうか？…二十歳くらい？…。正解は17歳から取得できます。つまり、ティーンズの皆さんはもう取れるか、あと数年で取れるようになるということですね！

この本は、こんな感じで飛行機についてのあまり知られていないマメ知識が豊富に詰まった一冊です。飛行機だけでなく、パイロットやキャビンアテンダント、空港についての雑学もたくさん載っているので、飛行機より

そちらの方に興味があるという方にもオススメです。最後に、17歳で取れるのは個人で操縦するための免許。プロとして働くには、また別の免許が必要なようです。念のために書いておきます。



職員おすすめ本コーナー

名作裁判あの犯人をどう裁く？

《ポプラ社》森 炎/著 【327.6/×】

裁判員裁判制度が始まって11年たちました。もしかしたら自分もその場に立つ日が来るかもしれません。でも正直よくわかんないし、そもそもドラマでしか見たことがない…そんなティーンズでも楽しく読めて勉強になる本、見つけました！それが『名作裁判 あの犯人をどう裁く？』です。名作に出てくる犯人を現実世界の制度で裁くとどうなるのか。はたまたその判決が正しいのか。一緒に考えるきっかけになります。殺人と事故の違い、死刑が妥当なのか、懲役何年が妥当なのか…。あなたならどう裁きますか？どうしてその判決にしましたか？



この本を読んで、みんなと意見交換するのも大事かもしれないですね！意外な発見もあるかもです！裁判の題材として登場する本を読んでいなくても大丈夫。どんな話であるのか、大事なポイントをしっかり教えてくれます。題材に選ばれた本も読んでみたくなる一冊です！

空色ヒッチハイカー

《新潮社》橋本 紡/著 【913/ハ】



突然ですが、そろそろ旅、したいなぁ。なんて思いませんか？ちなみに最近の落花（おちはな）は、「旅行行きたい」が口癖です（笑）。この物語の主人公修二は現役高校生であるにも関わらず、自分で運転をして長距離・長期間ドライブを試みます。これだけでティーンズ心をくすぐるよねえ…なんて思いながら読んだ落花（おちはな）ですが、みんなは車の運転してみたいな～とか思ったことはありませんか？（…おっと、話がそれてしまった）修二の旅の目的は、いなくなってしまった「パーフェクト」なお兄さんを探すこと。そこで知り合ったヒッチハイクの女の子がいて…最初はお兄さんを探しに行った旅でしたが次第に…

ティーンズをいつか前に卒業した落花（おちはな）ですが、大人になった今読むと、「青春だー！！」って気持ちになる一冊です。章のタイトルが地名なのも面白いところ。なんとびっくり岡崎も出てくるよ。「この辺の道かな？」なんて想像しながらよむのも面白いかも？（でも、リアルな車の運転は、免許を取ってからにしましょう）



スタンフォード式 最高の睡眠 《サンマーク出版》西野精治/著

【2Fポピ H498.3/ス】

皆さんは最近よく眠れていますか。暑くて寝苦しい日が続くし、夏休み中は、ついつい夜更かししてしまうこともありますよね。でも、睡眠が足りないと、それを賄うためにより多くの睡眠時間が必要になるってこと知ってました？

今回は最高の睡眠について書かれた本を紹介します！この本の面白いところは、「寝る前に軽い運動や入浴すると良い」とか、「睡眠時間を90分の倍数にすると目覚めがよくなる」など昔から信じられている情報が間違っていることをアメリカのスタンフォード大学の長年の研究によって判明した科学的なデータをもとに解説していくところです。自分も今まで間違った情報を信じて目覚ましをセットしていたので衝撃を受けました！どのようにしたら最高の睡眠がとれるか、その解決策についても個々の状況に応じた形で書かれています。とりあえず自分もお風呂に入るタイミングを直そうと思いました（笑）人生の3分の1を占める睡眠時間を、この本を読んでよりよいものにしてみませんか？

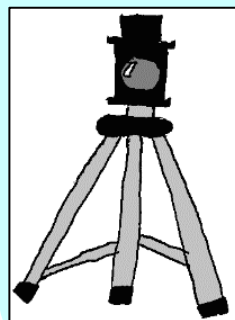


世界でいちばん長い写真 《光文社》菅田 哲也/著

【2Fポピ F913.6/ホン】

親友の洋輔が転校してからというもの、どこか冴えない日々を送っていた宏伸。ある日、祖父のリサイクルショップで奇妙なカメラを発見する。それは、長ーい写真を撮ることが出来る特殊なカメラだった……。

何事にも消極的だった宏伸が、写真の長さのギネス記録への挑戦を通して変わっていく様子を描いた王道の青春小説です。見所は宏伸の成長と世界記録への挑戦シーン。他の登場人物も皆魅力的で、特に宏伸の従姉妹の温子と、写真部部長の三好の二人の女性陣が作品のいいアクセントになってくれています。（振り回されてる宏伸は大変そうだけれど…）



ちなみに、作者は「ストロベリーナイト」などを書かれた菅田哲也さん。この本を読むまで青春モノも書かれることを知らず、自分にとっては作者の新たな一面に触れられた一冊でもありました。

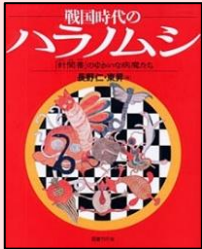


職員おすすめ本コーナー



戦国時代のハラノムシ

《国書刊行会》長野 仁／編、東 昇／編



戦国時代、織田信長が上洛したあたりのころに書かれた医療に関する書物、『針聞書（はりききがき）』によると、当時、病気は虫によってかかると考えられていたとされる表記があるとか。虫と言っても、落花（おちはな）が苦手なアレヤソレではなくて、体に悪影響を及ぼすとされる想像上の虫。

この本では、その「虫」を形状別に紹介してくれます。お腹が痛いときはどんな虫がいたずらしているのかな。じゃあ頭が痛いときは？

健康や体について考える機会が増えた今、はるか昔の日本ではどんな風に考えられていたのかな～なんて考えるのも面白いね！ちなみにリアルな虫は得意ではない落花ですが、これは大丈夫なので、虫苦手ティーンズも安心して読んでOK☆（笑）

【490.9/セ】

十代に共感する奴はみんな嘘つき

《文藝春秋》最果タヒ／著

10代ってどことなくキラキラしていて、青春ってどことなく尊いもの。今、10代を生きているみんなは、苦かったり辛かったり、きっと楽しいだけじゃないよね。感情的になったり、逆に感情的になるのが恥ずかしくなったり。そんな10代を懸命に生きる17歳のカズハが主人公です。小説というより17歳の女の子の「頭の中」を覗いた感じで進みます。個人的にテンポがいいので読みやすいです。10代ならではのもやもやが詰まっているので、ティーンズみんなが読むと共感する部分も多いかもしれないね。実際落花も「自分だけじゃないんだなー」って思いました。でもそんな日常を懸命に生きる10代は素敵だなんて思う一冊です。生きているってそれだけで尊い。それを、今を生きるみんなに伝えたい。そんな一冊です。



【F913.6/サイ】



靴のお手入れ新常識

《NHK出版》安富 好雄／監修

学校に行くとき、みんなは何を履きますか？スニーカー？ローファー？（アニキが通っていた高校は割と自由だった気がしますが、中学校は全員白い運動靴でした…もしかして今は違う!?) 毎日同じ靴を履いている、って人も多いと思います。毎日履くと、愛着もわきますがどんどん汚れも…

お気に入りの1足を長く履くために、自分でお手入れしてキレイにしてみませんか？やり方が分かりやすくまとまっているので、ぜひお試しください！



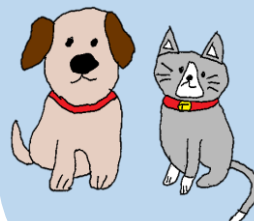
【2Fポピ H589.2/ク】



あなたのペットが迷子になっても

《緑書房》遠藤 匡王／著

もしも大切なペットが迷子になって何日も帰ってこなかったとしたら…想像しただけで心配でたまらなくなってしまうですね。ですが、世の中には、そんな時にとっても頼りになる、ペット探しのスペシャリスト「ペット探偵」がいます！この本では、ペット探偵である著者がこれまでに体験したエピソードを紹介していきます。探す対象がペットだからこそ起きる驚きのエピソードが満載！



他にも、万が一自分のペットが迷子になった時の探し方などを犬と猫それぞれ解説されています。もちろん、実践する日が来ないのが一番だけど、特にペットがいる人には読んでほしいです！

【1Fレファ 451.7/ニ】

落花 心の川柳

くつみがき せつかくしたのに 雨予報

（解説：あるあるだよね～。）



シンデレラのねずみ
《偕成社》 斉藤 洋／作, 森泉 岳土／絵

【913/サ】

みんなは、「不思議な話」って信じますか？

この物語は、事情があって図書館で働き始めた主人公が、「児童読書相談コーナー」の担当になるところから始まります。

ここを訪れるお客さんたちは主人公に読書相談ではなく、“不思議な話”をしていくんだとか。子どもが話すザ・メルヘンな可愛い話から、魔法使いが出てくるファンタジー。さらにはゾク々とするようなホラーも… (怖)

1冊読むだけで様々なジャンルの話が楽しめるのでなんだか得した気分になりました！ちなみに一話完結タイプの小説なので冬休みの隙間時間に1話ずつ読むのもいいかもね！

みんなも不思議な話があれば、ぜひ図書館に来て落花生に教えてね！でもできれば怖い話がいいなあ…。



おさんぽBINGO たのしいおさんぽ図鑑
《株式会社 G. B.》 ブンケン／著

寒い冬がやってきましたが、気分転換におさんぽに出かけてみませんか？街中に出てみると意外な発見と出会いがあるかもしれません。特にこの本を持っていくとさらに視野が広がること間違いなし。今までは見逃してしまっていたものにも気付けるかもしれませんね！

…と、ここまでまじめに書きましたが、この本めちゃくちゃ面白いです、というか笑わずに読むことは不可能です (断言します)。だから電車では読んじゃだめ！

街を散歩していると出会う様々なものに切り込んでいく一冊です。「あ～こういうのあるある！」っていうものから、「え！こんなどこにある！？探さなきゃ！」ってもの、そして仮想の世界のものも……。と喋ってるうちに散歩に行きたくてうずうずしてきましたね。この本を手にした瞬間からあなたは散歩に行く運命なのです。

個人的には「パールック」の章が好きなので街にパールックを探しに行きます！



【049/タ】



望郷

《文藝春秋》 湊かなえ／著

【2F ポピ F913.6/ミナ】

たまには僕の好きな作家さんの作品から1冊紹介しようかな。この「望郷」は、瀬戸内海の架空の島、白綱島を舞台にした短いストーリーがいくつか載っている、結構スイスイ読める一冊です。

ちょうど僕が高校生の時、額田町と岡崎市が合併して新しい岡崎市になりました。当時の僕のクラスメイトの中には額田町に住んでいる子がいて、「次の1月1日から俺も岡崎市民だぜ！」と嬉しそうに言っていたのを今でも覚えています。

みんなは自分の住んでいるまちがとなりのまちとくっついて、名前が変わります、ってなったらどう思いますか？新鮮な気持ち？さみしい気持ち？自分に置き換えて考えてみるのも面白いと思います。(ちなみに大人になった今は、「免許証の書き換えしなきゃいかんよなぁ…」とか、そんなさみしい現実ばかりに気持ちが行くようになりました…。)



トリツカレ男

《ビリケン出版》 いいいいしんじ／著

【自動書庫 F913.6/イシ】

オペラに三段跳び、サングラス集めなど次から次へと色々なものに熱中することから、みんなからトリツカレ男と呼ばれているジュゼッペ。ある日、そんなジュゼッペが風船売りの少女ペチカにトリツカレてしまった。ペチカは心に大きな哀しみを抱えている様子。彼の友達のハツカネズミ(何と人の言葉が話せる!)に協力してもらいながら、彼女の哀しみを取り除くための奮闘の日々が始まった。

まるで童話のような不思議な世界観のお話です。ジュゼッペがこれまでトリツカレた、一見役に立たなそうなものが、次々と活かされていく展開が面白く、何より自分には何の得にもならないかもしれないのに、ペチカのために一生懸命なジュゼッペの姿に胸打たれます。少し昔の本ですが、読みやすく年代関係なく心温まる一冊なのでぜひ。

